

東京国立博物館 ニュース

2003

56
月号

- 建長寺創建750年記念特別展 鎌倉 禅の源流 2
- 平成14年度新収品 4
- 江戸開府400年記念 特集陳列シリーズ「幕府と町人」 4
- 平常展見どころ案内 5
- はくぶつかん散歩 7
- 国宝室 / 工芸の至宝室 展示予定 8
- こどもミュージアム / 講座・講演会など 9
- 誌上ギャラリー・トーク「広開土王碑」 10
- 東京国立博物館友の会 / ぐるっとパス発売 12
- Who's Who in東博 12
- TOPICS / 九博だより 13
- 平常展の主な展示作品 14
- 5月・6月の展示・催し物 16



鎌倉 禅の源流

北条時頼と蘭溪道隆により建長寺が創建されてから、今年で750年。武士の都・鎌倉に花開いた多彩な禅文化を紹介する展覧会の開幕です。今回は、会場の構成に従って、展覧会の誌上プレビューをお楽しみください。



蘭溪道隆坐像
鎌倉時代・13世紀 神奈川・建長寺蔵
建長寺に中国の禅宗寺院の運営方法を導入し、日本に禅宗を定着させた開山・蘭溪道隆の面差しをよくとらえた像。一般に公開されるのは今回が初めて

建長五年（一二五三）、鎌倉幕府五代執権・北条時頼が、中国の高僧蘭溪道隆を招いて建長寺を創建しました。それ以後室町時代に至るまでの、中世鎌倉および東国禅林の文化遺産を四章に分けて展示します。禅の展覧会としてはこれまでにない規模で、特に彫刻の作品が充実しているのが大きな特色です。

一、鎌倉武士と禅

鎌倉の禅は、建長寺と円覚寺を中心に繁栄を極めました。ここでは武士と禅の関係を示す資料や、鎌倉で活躍した禅僧の頂相（肖像画）、頂相彫刻、墨跡等を展示します。蘭溪道隆、無学祖元、高峰顕日、夢窓疎石の頂相、頂相彫刻と墨跡が揃います。高僧たちの精神をも写したと思えるほどの迫真の描写に直面してください。初公開の蘭溪道隆の彫像は、建長寺境内でも立ち入りが禁止されている西来庵に安置されているので、拝観の機会は今回のみです。

二、中国との往来

鎌倉時代、中国から多くの高僧が日本に渡来し、また、日本からも多くの禅僧が本場の禅を求めて中国に渡りました。このような活発な交流によって中国と日本との間を往来した禅僧たちは、禅とともにさまざまな文化を鎌倉に伝えました。鎌倉の禅は当時の日本にあって、最も異国的な空間だったのです。円覚寺開山・無学祖元所用と伝えられる、円覚寺開山筆筒収納品の袈裟や漆器がまとまって出品されるのは初めてのことです。

三、鎌倉ゆかりの絵画

草創期の鎌倉の禅宗寺院で制作された、鎌倉五山初期の住持の賛がある絵画をご覧ください。また、十五世紀から十六世紀にかけて活躍した、建長寺の仲安真康と祥啓、円覚寺の宗淵、雪舟の弟子といった画僧たちの水墨画、五山文学の興隆を物語る詩画軸は見てごらなす。



六祖図（部分）
無学祖元賛 鎌倉時代・13世紀 大阪・正木美術館蔵
無学祖元が建長寺の住持だった弘安3年（1280）頃に書いた賛があることから、建長寺の画僧が制作したものと考えられます



円覚寺開山筆筒収納品より 袱子
元・明時代・14世紀 神奈川・円覚寺蔵
円覚寺には開山・無学祖元所用と伝えられる袈裟、漆器、印などを収める筆筒が伝えられています。今回はそれらをまとめて展示します



●観音猿鶴図
牧谿筆 南宋時代・13世紀 京都・大徳寺蔵
当時、鎌倉の禅寺には牧谿の作品が複数あったという記録があります。今回は牧谿の代表作が京都・大徳寺から出品されます（6/3～6/15 展示）

講演会と関連イベントのお知らせ

記念講演会

6月14日(土)13時30分~(開場13時予定)

講師 東京国立博物館 浅見龍介
《事前申込制、締切：6月4日》

6月28日(土)13時30分~(開場13時予定)

講師 臨済宗妙心寺派福聚寺副住職・作家
玄侑宗久《事前申込制、締切：6月18日》

会場：平成館大講堂

定員：380名(応募者多数の場合は抽選)

*聴講無料(特別展の観覧券が必要)

茶会

立礼式薄茶点前

席主：永井宗誠(臨済宗建長寺派宗務総長)

「茶禅一味」の言葉通り、互いに影響を受けながら発展してきた禅と茶の文化。お茶を味わいながら、席主の解説により、禅と茶の湯の関わり、茶事の楽しみ方を学びます。

6月7日(土)8日(日)22日(日)28日(土)

7月5日(土)6日(日)

各日 10時~、11時~、12時~、13時~、
14時~(計5回)

会場：庭園内 応挙館

料金：2100円

(菓子付、特別展観覧料含む、お一人様1回限り)

定員：各回 50名《事前申込制・先着順》

坐禅会

坐禅は禅の修道の基本です。正しい坐禅の仕方を学び、実際に体験することでより深く禅文化を理解していただけるでしょう。

会期中の毎週金曜日

各日 11時~、13時~、15時~、16時30分~、
18時~(計5回)

会場：庭園内 応挙館

定員：各回 60名《当日先着順・入れ替え制》

*参加無料。ただし特別展観覧券または半券をご提示ください。当日10時から整理券配布。

パントマイム ZEN

ヨーロッパ・マイム界の第一人者ミラン・スラデク氏が、本展覧会にちなんで創作プログラムを発表。世界初公開!

6月6日(金)18時30分開演

会場：平成館大講堂

料金：3100円(特別展観覧料含む)

定員：350名《事前申込制・先着順》

*申込方法の詳細は、TEL 03-3545-8295

「鎌倉」展イベント事務局まで



加藍神像 鎌倉時代・13世紀 神奈川・建長寺蔵
道教の神が着ける冠、服、履は日本では見慣れないもの。
5体のうち1体の顔面にはひげを植えた孔もある



四、中国風文化の隆盛
鎌倉の禅刹には多くの仏像が安置されています。宝冠釈迦如来像、滝見観音像あるいは水月観音像そして伽藍神像などです。これらは禅宗独特の尊像で、中国では宋時代から元時代に大流行したもので、中国風を積極的に取り入れた鎌倉でも盛んに造られました。他の地域にはあまりない、変わった形表情の像に眼を奪われます。
(浅見龍介)

観音像
伝祥啓筆 室町時代・15~16世紀
神奈川・建長寺蔵
岩にもたれて月を見たり、滝に足を打たせたり、海上を渡ったりというユニークな姿で描かれた32幅の観音像

建長寺創建750年記念 特別展 鎌倉 禅の源流

6月3日(火)~7月13日(日)
東京国立博物館 平成館

主催 東京国立博物館、日本経済新聞社
企画協力 大本山建長寺
特別協賛 キヤノン
協賛 商船三井、大成建設、三井物産、
横河電気

これからの特別展

8月5日(火)~10月5日(日) 平成館

アレクサンドロス大王と
東西文明の交流展

主催：東京国立博物館・NHK・

NHKプロモーション・読売新聞社

マケドニアのアレクサンドロス大王による東征を契機に、ギリシャ文化と東方世界の文化が融合して生まれたヘレニズム文化の美術をご覧ください。



アレクサンドロス像
ルーヴル美術館蔵
©RMNH Lewandowski

10月7日(火) 12月21日(日) 表慶館

ダイヤモンド ジュエリー展
ヨーロッパの宝飾400年

主催：東京国立博物館・TBS

16世紀から現代までの、ダイヤモンド・ジュエリーの名品を集めます。歴史に輝く王侯貴族が身につけたジュエリーの数々を表慶館でご堪能ください。



翼のモチーフのある
小さなティアラ
アントワープ州立
ダイヤモンドミュージアム蔵

平成14年度新収品

5月13日(火)～6月22日(日)
本館特別第3・4室

購入あるいはご寄贈により当館の収蔵品となつた作品をお披露目する新収品展。なかでも注目の作品についてご紹介します。



四季花鳥図屏風 伝雪舟筆 室町時代・15世紀 右隻

木々や動物たちの生命力とダイナミックな空間構成

四季花鳥図屏風 伝雪舟筆

雪舟の花鳥図屏風を考えると、最も重視される三つの屏風の一つが、この作品です。これら雪舟の花鳥図屏風の第一の特徴は、動物が実物大に近い大きさで描かれているため、たいへん迫力があることです。第一は、画面を所狭しとばかりに伸びる樹木の強い生命力の表現です。第二は、鳥の動きや樹木の枝ぶりによって生まれるダイナミックな空間です。

昨春、当館は雪舟没後五百年を迎えての雪舟展を開催いたしました。そのような節目にこの花鳥図屏風の名品をコレクションに加えることができたのは、まことに喜ばしく、ありがたいことです。

(救仁郷秀明)

主な展示作品

- 四季花鳥図屏風
- 伝雪舟筆 室町時代・15世紀
- 坪内老大人像 江戸時代・19世紀
- 毘沙門天立像 平安時代・12世紀
- 金銅輪宝 鎌倉時代・13世紀
- 花入 信楽 桃山時代・16～17世紀
- 振袖 白紵地楓竹矢来文字模様 江戸時代・18世紀
- コルシーニ宮蒔絵プラーク 江戸時代・19世紀
- 壺 西周時代・前11～10世紀
- 青花蓮池文大皿 景德鎮窯 元時代・14世紀
- 梅花水仙図 天如筆 明時代・正統6年(1441)
- 草書孟浩然詩巻 張璠図筆 明時代・天啓2年(1622)

江戸開府400年記念 特集陳列シリーズ「幕府と町人」

幕府と町人をめぐるさまざまな作品を通して、新しい観点から江戸時代の文化と歴史に触れるシリーズ企画 全十二回

二〇〇三年は、徳川家康が江戸に幕府を開いてからちょうど四〇〇年にあたります。二世紀半に及ぶ平和と繁栄の時代・江戸、十八世紀半ばに早くも人口百万に成長した都市・江戸。その文化は、広く深く、多彩で、今に生きる私たちを魅了してやみません。東京国立博物館では、この記念すべき年に特集陳列シリーズ「幕府と町人」を企画しました。江戸という時代と都市に関わる美術作品や歴史資料を駆使して、江戸の風景、江戸の暮らし、江戸の文化、江戸の科学などをさまざまな側面から江戸に迫ります。秋には、江戸開府四〇〇年記念特別展「伊能忠敬と日本図」も開催されますので、どうぞお楽しみに。

江戸城再現 4月22日(火)～6月1日(日) 本館第14室

江戸城は、幕末・維新期に主な建物が焼失し、明治初期にはほとんどが取り壊されてしまいました。江戸城天守閣図や、取り壊し直前に撮影された旧江戸城写真帖(重文)などによって、失われた江戸城の姿をご覧ください。また奥絵師の

狩野晴川院(養信、一七九六～一八四六)らの手になる華麗な江戸城障壁画下絵や、その制作の過程が知られる晴川院自筆の「公用日記」の他、江戸城内上水及下水諸図などを紹介します。(高橋裕次)

江戸開府400年記念 特集陳列シリーズ 「幕府と町人」全12回

- | | | |
|-------------|-------------------------|-----------|
| 「徳川將軍家の栄華」 | 3月18日(火)～4月20日(日) | 本館第14室 |
| 「江戸城再現」 | 4月22日(火)～6月1日(日) | 本館第14室 |
| 「江戸の料理」 | 7月1日(火)～8月10日(日) | 本館第19室 |
| 「江戸を掘る」 | 7月19日(土)～9月28日(日) | 平成館寄贈品展示室 |
| 特別一挙公開 | | |
| 「北斎の富嶽三十六景」 | 8月12日(火)～9月7日(日) | 本館第18室 |
| 「江戸の納涼」 | 8月12日(火)～9月21日(日) | 本館第19室 |
| 「広重の江戸名所」 | 9月9日(火)～10月5日(日) | 本館第18室 |
| 「江戸の雛形」 | 9月23日(火・祝)～11月3日(月・祝) | 本館第19室 |
| 「江戸の博物学」 | 11月5日(水)～12月14日(日) | 本館第19室 |
| 「江戸の年中行事」 | 12月16日(火)～2004年1月25日(日) | 本館第19室 |
| 「江戸の作法」 | 1月27日(火)～3月7日(日) | 本館第19室 |
| 「江戸の医学書」 | 3月9日(火)～3月31日(水) | 本館第19室 |

江戸開府400年記念 特別展 伊能忠敬と日本図

10月31日(金)～12月14日(日) 平成館特別展示室

日本地図の大展覧会です。伊能忠敬が最高度の測量技術を駆使して作成した「大日本沿海輿地図」は必見。昨年当館で発見され、これが初披露となる小図(三枚揃い)をはじめとし、当館所蔵の伊能図がすべて揃って公開されるはじめての機会となります。



旧江戸城写真帖 明和時代・19世紀
本丸内の水道施設でポーズをとる武士たち



天球儀 安永年間(1772~81)奉献
表面に星座、赤道などを描いた天球の模型。
祭の際、聖堂内に飾られたもの

「置く、奠」は、据え
る」という意味があ
ります。だから、積奠
は、孔子をはじめと
する先哲の霊前にい
るゝるな供えものを
置いたり据えたりす
る祭、ということに
なりましょ。この

漆工
工芸技術の粋を凝らしたお供えの道具
特集陳列「孔子さまのおまつり」

6月29日(日)まで 本館第4室
湯島聖堂積奠器

日本の意匠は、常に季節感にあふれ
ています。それは、日本人が四季の移
り変わりとともに生きてきたからで
しょう。近世の染織模様は、四季折々
の風物に注がれた日本人の愛情を再
発見します。
新緑あふれる五月から六月は、つや
やかな松樹に掛かる淡い紫色の藤の花
房が風にゆれ、桐の花が山裾を彩る景
色を遠くに眺めたことでしょうか。初夏

染織
初夏を感じる小袖と武家の衣裳
近世の染織

6月29日(日)まで 本館第3室

にふさわしい模様をア
ザインした小袖を展示
いたします。また、五月
五日は菖蒲の節句。は
つらつとした鯉をデザ
インしたきものを出し
てみました。菖蒲の節
句は男子の健やかな成
長を願うおまつりでも
あります。武家の服飾
に見る男性のファッシ
ョン、胸服や陣羽織、粋
な小紋の袴などをお楽
しみください。
(小山 弦葉)



浅葱白紫染分練緯地銀杏雪輪模様胸服 桃山時代・16世紀
桃山時代の武家ファッションを彩った「辻が花染」の胸服

祭が、わが国でもっとも盛んになっ
たのは江戸時代のこと。元禄四年(一
六九一)には、儒教の熱烈な信奉者で
ある將軍綱吉が、湯島に大規模な聖
堂を建立して、積奠の祭も盛大をき
わめます。
さて、今回陳列するのは、そのお祭
りに使われた道具の数々です。饌具、
つまりお供えする飲食物の容器か
ら、香具、燭台、文房具にいたるまで
……。漆芸、金工の技術の粋を凝らし
て造られた道具類を通じて、往時の
盛儀のさまを偲んでいただければ、
と思います。
(小松大秀)

考古
中国からきた靈獣
銅鏡にみる四神像の変遷

6月15日(日)まで 平成館考古展示室

青龍・白虎・朱雀・玄武からなる
四神は四方を護る靈獣で、古代中国
の世界観である北極星(大極)太一
と二十八の星宿で構成される天を象
徴し、日本の高松塚古墳の壁画や都
城の朱雀大路・大極殿などの名称に
もあらわれます。このような思想の
原形は春秋戦国期からみられ、漢代
には神仙像などとともに画像石や銅
鏡の図像・銘文にさかんに表現され

ました。弥生時代中頃から、方格規
矩四神鏡などの後漢鏡が多数舶載さ
れましたが、古墳時代国産鏡の四神
像は次第に形骸化し、その構成も崩
れて渦文化、ついには省略されてし
まいます。古代日本における四神思
想の直接の影響は八世紀初め頃を待
たなければならず、日本列島におけ
る中国思想の段階的な受容の一端を
示しています。
(土谷 毅)



変形方格矩四神鏡
奈良県河合町 佐味田宝塚古墳出土 4世紀
大型国産鏡。四神像の構成がくずれ、変形も著しい

彫刻
鎌倉時代の新潮流
慶派の彫刻

6月29日(日)まで 本館第8室



大日如来坐像 鎌倉時代・12世紀 栃木・光得寺蔵 有力な御家人足利義兼の依頼で蓮慶が造ったとみられる作品。荘厳・厨子すべて製作当初のものを展示します。(浅見龍介)

源平の合戦という乱世を経て、武家政権が樹立された時代の変わり目に現れた蓮慶(一二三三)と快慶、平安貴族が好んだ穏和な作風がマンネリ化して停滞気味だった造仏界にあつて、写実的で運動感に富む新鮮な作風を創造して、頭角をあらわしました。彼らは奈良に拠点を置いて、古い時代の仏像に触れる機会が多かったこと、東大寺大勧進俊乗房重源との密接な交流から、中国・宋時代の文化の情報を得たことが創造の源と考えられます。その後も蓮慶(一二七二-一二五六)、康円(二二〇七-?)を輩出し、武士や貴族有力寺院の造像の中心的存在であり続けました。三世代にわたって受け継がれた慶派の特色ををご覧ください。第9室には康円の代表作である文殊五尊像を展示します。(浅見龍介)

浮世絵版画
旅の心に誘われて

木曾海道六拾九次之内

5月27日(火)〜6月22日(日) 本館特別第1室



木曾海道六拾九次之内・大宮宿富士遠景 溪斎英泉筆 江戸時代・19世紀

『木曾海道六拾九次之内』シリーズは、歌川広重の『東海道五拾三次之内』シリーズの売れ行きが良かったため、版元の保永堂が二匹目のドジョウを狙って企画したものです。中山道(木曾海道)の板橋から守山までの宿駅六十七宿と、東海道と合流した草津、大津の二宿、それに起点の日本橋を描いており、最初は溪斎英泉(一七九一〜一八四八)が描き、途中から広重が加わりました。

埼玉の大宮は、四番目の宿ですが、大宮の郊外からは今も富士山がきれいに見えます。この図は溪斎英泉が描いたもので、線遠近法を意識した構図が取られ、葛飾北斎の影響が見られます。今回の展示では他に広重の作品を加え同シリーズの十一図を展示しますので比較してご覧ください。(田沢裕貴)

中国書跡
華麗で多彩な書の系譜

明時代の書

5月27日(火)〜7月21日(月・祝) 東洋館第8室

元時代の余風に覆われていた明初の書も、やがて経済の中心が呉中(江蘇省蘇州)周辺に移ると、祝允明文徵明、王寵、呉中の三才子をはじめとする優れた文人が輩出され、明代書法の鼎盛期を形成しました。魏晉時代の小楷に範を求めたその書は、古風な書風の中に気高さをたたえたものですが、一部には伝統に拘束されない、自由な姿態を尚ぶ狂草も好まれました。

明の後期に、率意の書を理想とした董其昌が出現すると、書画の主流は再び華亭(上海市松江)に移り、その書風は後世に大きな影響を与えます。明末清初には、連綿の行草書に豊かな情感を盛り込んだ張瑞図、黄道周、王鐸、倪元璐らの個性的な一派が新興しました。明代中後期の諸相ををご覧ください。(富田 淳)

法隆寺献納宝物
遠い異国に思いをはせて
伎楽面

4月29日(火・祝)〜5月25日(日) 法隆寺宝物館第3室

伎楽は、仏への供養として、法会の際に演じられた仮面舞です。『日本書紀』推古天皇二十年(六二二)の条に、「百濟の人味摩之歸化す。曰く呉に学びて伎楽舞を得たり」とあるように、もともとは、中国の呉の国で起り、そこから百濟を経由して日本に伝わったと考えられています。伎楽面は、頭からかぶるように装着するのが大きな特徴で、その種類としては、醉胡従治道、呉公、呉女、力士、金剛、毘喃迦楼羅、太孤父などがありますが、治道に見る大きな鼻をもったペルシヤ人風の容貌をしたものや、丸い髻を結

った中国女性をはじめ、さまざま顔立ちをした人物や、さらに迦楼羅のようなインド神話に出てくる鳥などもあって、実に多彩です。まさに日本が東西交流の到達点であることを具体的に示す遺品といえるでしょう。平安時代の後期には衰えましたが、今なお私たちにロマンをかきたててくれるものが、この伎楽面にはあります。(原田一敏)



楮書前後出師表巻 祝允明筆 明時代・正徳9年(1514) 金箔を散らした彩箋に、諸葛孔明の出師表を書いた祝允明の代表作



伎楽面 醉胡王 奈良時代・8世紀 鼻の高い異国風の西域の王様



伎楽面 獅子児 奈良時代・8世紀 獅子を操る少年の面。アーモンド型の目が印象的

寄贈品展示室

ティファニーを東博で

特集陳列「ティファニーからの贈りもの」

6月1日まで 平成館寄贈品展示室

ルイス・カムフォート・ティファニーは十九世紀末から二十世紀にかけて活躍したアメリカのガラス工芸作家です。宝飾器で有名なティファニーの創業者チャールズ・ルイス・ティファニーの長男として一八四八年に生まれ、絵画を学び、室内装飾、ガラス工芸へとその世界を広げていきました。一八九三年(明治二十六年)、シカゴ・コロンプス世界博覧会でティフ

アニーは五十四もの賞を獲得、名声が世界に広がりました。今回ご紹介するのはその二年後一八九五年にティファニーから寄贈された作品です。時期的にはアール・ヌーヴォーの隆盛の中でティファニーのガラス工芸が開花する直前であり、その意味でも貴重な作品をこの機会にぜひご覧ください。(伊藤嘉章)



ステンドグラス「独立戦争図」、ルイス・カムフォート・ティファニー作 19世紀赤い服はイギリス軍、独立戦争の一場面です。画題をご存知の方いらっしゃいませんか?!

日本画家 川端龍子旧蔵の名品

特集陳列「川端家寄贈の毘沙門天立像」

6月7日(土)~7月13日(日) 平成館寄贈品展示室

この毘沙門天立像は、大正、昭和に活躍した日本画家川端龍子(一八八五~一九六六)が所蔵していたものですが、この度、川端家のご厚意によって当館に寄贈されました。龍子はこの像を愛し、自宅内に持仏堂を建て、大切に祀っていたといえます。

本像には毘沙

門天を表した百十枚に及び印仏と彩色された一枚の画像が納められており、一部の印仏に記き

れた墨書から、印仏は応保二年(一一六二)に供養されたことがわかり、本像の造立もその頃と推定されます。さらに、もと中川寺奈良市中ノ川町に所在し、現在寺跡のみが残る十輪院

持仏堂に安置されていたことも知られます。また、切金をまじえた当初の彩色がよく残り、鎌倉時代に一般化する玉眼を嵌入した仏像の早い例としても貴重です。今回は、印仏や画像の納入品も陳列し、舞台でありながら一般公開される機会の少なかつた本像の全容を紹介します。(岩佐光晴)



毘沙門天立像
平安時代・
応保2年(1162)
切金をまじえた華麗な彩色が美しい

散歩がふはく

1



初代博物館長・町田久成(1838?~97)の墓
久成の一周忌、明治31年9月に墓碑が建てられた

歌仙ほど御寺のなほ花の山野の山のごとて、歌仙ほどお寺が並ぶというのは、寛永寺の宿坊を指しており、それが歌仙の数ほど、すなわち三十六もあるというのです。寛永寺で執り行われる法会に参列する大名たちが前夜から分宿したのでその寺を宿坊といえます。

「一乗比丘久成墓」とのみ刻まれています。もうお判りでしょう、東京国立博物館の創立者町田久成のお墓なのです。当館の庭園内にある「町田石谷君碑」には、殯上野津梁院、葬滋賀法明院とありますように滋賀県にもお墓があります。明治十五年(一八八二)に上野に博物館を開館させた久成は、唐突に官を辞して僧籍にはいり数奇な人生を送ります。そして病を得、夢を託した上野で死を迎えます。明治三十年九月十五日のごことで享年六十歳でした。町田久成の墓所は現在台東区の史跡に指定されています。(上野仁哉)

初代博物館長 町田久成の墓所
上野桜木 津梁院



国宝室 / 工芸の至宝室 展示予定

本館のハイライト、国宝室と工芸の至宝室の平成15年度展示スケジュールが決まりました。

国宝室 本館第12室、第19室(第19室は2003年6月1日まで)

3 / 4 ~ 4 / 20	●大般若経(和銅五年十一月十五日長屋王願経) ●賢愚経残巻(大聖武)伝聖武天皇筆	佐賀・太平寺 東京国立博物館	本館第19室 本館第19室
4 / 8 ~ 5 / 5	●鷹見泉石像 渡辺華山筆	東京国立博物館	本館第12室
4 / 22 ~ 6 / 1	●秋萩帖 伝小野道風筆 ●寛平御時后宮歌合	東京国立博物館 東京国立博物館	本館第19室 本館第19室
5 / 7 ~ 6 / 1	●餓鬼草紙絵巻	東京国立博物館	本館第12室
6 / 2 ~ 6 / 30	リニューアルのため閉室		
7 / 1 ~ 8 / 3	●山水屏風	京都・神護寺	本館第12室
8 / 5 ~ 9 / 15	●孔雀明王像	東京国立博物館	本館第12室
9 / 17 ~ 10 / 26	●元暦校本万葉集	東京国立博物館	本館第12室
10 / 28 ~ 12 / 7	●虚空蔵菩薩像	東京国立博物館	本館第12室
12 / 9 ~ 1 / 18	●法華経(久能寺経)	静岡・鉄舟寺	本館第12室
1 / 20 ~ 2 / 29	●地獄草紙絵巻	東京国立博物館	本館第12室
3 / 2 ~ 3 / 31	●普賢菩薩像	鳥取・豊乗寺	本館第12室

*当館では、2003年7月に本館2階のリニューアルを予定しており、国宝室の絵画(12室)と書跡(19室)が1つの部屋に統合され、第12室のみが国宝室となります。また、このリニューアルに伴い、本館2階は6月2日~30日の間閉室となりますのでご注意ください。



●餓鬼草紙絵巻



●地獄草紙絵巻



●普賢菩薩像

工芸の至宝室 本館第2室

3 / 4 ~ 4 / 20	●片輪車蒔絵螺鈿手箱 銅梅竹透釣灯籠 黒糸威二枚胴具足	東京国立博物館 東京国立博物館 東京国立博物館	本館第2室
4 / 22 ~ 6 / 29	●金銅蓮華唐草文馨 陣羽織 猩々緋羅紗地違鎌模様 ●八橋蒔絵螺鈿硯箱 尾形光琳作	京都・禅林寺 東京国立博物館 東京国立博物館	本館第2室
7 / 8 ~ 8 / 31	●銅経筒 自然釉大壺 金銅吉野曼荼羅懸仏 銅板鑄出蔵王権現像	鳥取・倭文神社 個人 奈良・大峯山寺 奈良・大峯山寺	本館第2室
9 / 2 ~ 10 / 26	金銅火焰宝珠形舍利容器 小袖 白綾地秋草模様 尾形光琳筆 男山蒔絵硯箱	東京国立博物館 東京国立博物館 東京国立博物館	本館第2室
10 / 28 ~ 12 / 21	金銅五種鈴 縫箔 紅白段菊芦水鳥模様 朱漆金蛭巻大小	静岡・尊永寺 東京国立博物館 東京国立博物館	本館第2室
12 / 23 ~ 2004 / 3 / 7	楓流水鶏図真形釜 芦屋 ●舟橋蒔絵硯箱 本阿弥光悦作 小袖 黒紅綸子地熨斗模様	東京国立博物館 東京国立博物館 東京国立博物館	本館第2室
3 / 9 ~ 3 / 31	●太刀 銘 備前国長船住景光 元亨二年五月日 銅釣灯籠 鼠志野鶺鴒文鉢 美濃	東京国立博物館 千葉・笠森寺 東京国立博物館	本館第2室



陣羽織 猩々緋羅紗地違鎌模様



●銅経筒



金銅五種鈴

こどもミュージアム

小・中学生のみなさんに美術や歴史の面白さ、博物館の活動について楽しく知っていただく「こどもミュージアム」。平成15年度は、恒例の夏休み企画に加えて、年間を通してのこどもミュージアム、さらに秋の特別展にちなんだこどもミュージアムの3本を企画しています。ご家族で、また、学校の総合学習の時間などでのご来館をお待ちしています。イベントなどの都合により、数日休止となる場合もございます。

「博物館ってどんなところ？ はたらく人たち編」

本館特別第5室

平成15年4月1日(火)～平成16年3月31日(水)

博物館を支えるさまざまな仕事を紹介します。

パネル展示

博物館の仕事 展示会ができるまで
博物館の一日 昔の展示と今の展示 など

ワークショップ(事前申込制・学校の総合学習向けプログラム)

博物館で働こう！ など

小・中・高等学校での総合学習の時間などで、事前にグループ単位でお申し込みください。

問い合わせ・申し込み 教育普及室「こどもミュージアム」係
TEL 03-3822-1111(代表)

「アレクサンドロス大王の大冒険」

本館特別第5室

平成15年8月5日(火)～10月5日(日)

アレクサンドロス大王の生涯とヘレニズム文化が楽しく理解できるパネル展示とワークショップです。特別展「アレクサンドロス大王と東西文明の交流展」と同時開催。

「測量っていいのう～!? 伊能忠敬の日本地図」

本館特別第5室

平成15年10月31日(金)～12月14日(日)

伊能忠敬と測量について理解し、ワークショップで地図作りを体験してみましょう。江戸開府400年記念特別展「伊能忠敬と日本図」と同時開催。

講座・講演会など

東京国立博物館では、講演会や連続講義で一つのテーマを掘り下げる公開講座(オープンミュージアム)など、一般の方々を対象とした教育普及事業を行っています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

平成15年度上半期の講演会予定

5・6月に関しては本誌裏表紙をご覧ください。

7月12日(土)初めての東京国立博物館シリーズ

「中国陶磁鑑賞入門」列品室主任研究員 今井 敦

7月20日(日)古代の染織シリーズ

「作品について:幡」環境保存室長 澤田むつ代

7月26日(土)初めての東京国立博物館シリーズ

考古学入門 「古墳時代の考古学(後期)」

保存修復室主任研究員 古谷 毅

8月16日(土)初めての東京国立博物館シリーズ

「朝鮮半島の考古学入門」平常展室主任研究員 白井克也

8月23日(土)初めての東京国立博物館シリーズ

考古学入門 「古代の考古学」

奈良文化財研究所 田辺征夫

8月30日(土)巨像の移送と展示について

高幡不動尊金剛寺の不動三尊像を中心に」

図書・映像サービス室長 岩佐光晴

9月21日(日)古代の染織シリーズ

「作品について:襦」環境保存室長 澤田むつ代

9月27日(土)初めての東京国立博物館シリーズ

「中国考古学入門」列品課長 谷 豊信

時間:13時30分～15時 会場:平成館大講堂

定員:380名(先着順)

特別展記念講演会については未定です。

公開講座(東博オープンミュージアム)の参加者募集

「日本美術人物列伝シリーズ(近代篇)」全3回

日本美術史における著名な作者の人物像とその作品に迫ります。昨年好評をいただいた「近世篇」の続篇。

第1回 6月11日(水)

「黒田清輝 思想を描くということ『昔語り』を中心に」
東京文化財研究所美術部広領域研究室長 山梨絵美子

第2回 6月18日(水)

「狩野芳崖 フェノロサとの日本画創生」

東京藝術大学美術部助教授 佐藤道信

第3回 7月9日(水)

「橋本雅邦 偉大なる革新的伝統主義者」

宮内庁三の丸尚蔵館学芸室主任研究官 大熊敏之

会場:平成館小講堂

時間:14時～15時

定員:40名(申し込み多数の場合は抽選)

対象:一般

申し込み方法 氏名(必ずふり仮名をつけてください)

住所 電話番号 年齢を書いて往復はがきで当館教育講座室「人物列伝シリーズ」宛てにお申し込みください。

応募締め切り 5月30日(金)必着

講座費用は無料。原則3回連続聴講。

問い合わせ・申し込み 教育講座室

TEL 03-3822-1111(代表)

広開土王碑 「教科書の日本史」再検証

歴史の教科書に必ず登場する高句麗広開土王碑。古代日本史に深く関わる碑文をめぐって、明治以来さまざまな研究がなされ、多くの解釈が発表されてきました。当館所蔵の生の史料に触れていただきながら、古代史研究の一端をご紹介します。



講師 谷 豊信
東京国立博物館
列品課長

倭の謎に関わる巨大石碑

今度の夏休みに、学校の歴史教科書にも登場する広開土王碑に関する資料を集めて展示します。

広開土王碑は、中国吉林省集安市にある高さ六・三メートルの四角い石の柱で、柱の四つの側面に計一七五七字の漢文が刻まれています。写真は一九九五年に私が現地を訪れたとき友人に撮ってもらったものですが、いかに大きいかよく分るでしょう。

この碑には、高句麗の王様の一人、広開土王に関することが記されています。高句麗は前一世紀から七世紀まで、中国東北方の南部から朝鮮半島北部を支配した古代国家です。碑文によれば、広開土王は三九一年に十八歳で王となり、たび重なる戦いに勝利して高句麗の領土を大きく広げました。四二一年に四十歳で亡くなり、その二年後の四一四年にこの碑が建てられました。広開土王は好太王とも伝えられているので、この碑は好太王碑とも呼ばれています。

この碑が教科書に載っているのは、高句麗軍と倭の軍勢とが何度か戦ったことが記されているからです。ただ、その取り上げかたは、私が高校生であった一九七〇年代前半までと現在では、かなり変わっています。

そのころまでの日本の教科書には、日本(大和朝廷)は朝鮮半島南部を支配し北方の高句麗と対立していたのであり、その証拠が広開土王碑であると説明されていました。これは明治以

来、日本の歴史学界で定説とされてきた見方です。

その後、碑文の読み方は正しかったのか、文字そのものに問題はないか、倭は朝鮮半島を支配したか、そもそも倭とはなにか、学者の間でさまざまな説が出されるようになりました。最近の教科書には、海を渡ったのは倭ではなく高句麗とする説や、明治期に碑が見つかった際に碑文の一部が改変されたとする説もあるなど、詳しく説明しているものもありません。

東京国立博物館は、広開土王碑に関する重要な資料を所蔵しています。今回の展示で論争に決着をつけることはできませんが、古代史の生の史料に接していただくよい機会となると思います。

朝鮮半島征服の根拠とされた【広開土王碑 酒匂本】

高句麗の滅亡後、広開土王碑は忘れ去られ、その存在がふたたび世の注意を引くようになったのは、十九世紀後半のことでした。中国は清朝末期日本は明治時代に入っていました。まず現地で「墨水廓填本」というものがいくつか作られました。これは碑文を紙に写し取るのに、文字を白く残し、周囲を墨汁で塗りつぶして、拓本のような体裁にしたものです。

一八八三年(明治十六)、日本の陸軍参謀本部の将校で情報収集のために集安を訪れた酒匂影信氏は、大小の紙に最大二十文字を表わした墨水廓

填本百三十一枚一式を入手して帰国しました。ただちに軍の関係者が研究を始め、八八年に研究が一段落して、原本は皇室に献上されました。その翌年に広開土王碑の詳細な内容が発表されましたが、同時にこの碑は古代において日本が朝鮮半島を征服した証拠という説明がなされました。翌一八九〇年(明治二十三)に原本は四幅の掛幅の形で当館に移管されました。これを酒匂本と呼んでいます。後で復元が一部で間違っていたことが判明しましたが、酒匂本そのものは修正されていません。私を含め、中年以上の方が教科書でご覧になった、広開土王碑の拓本は、この酒匂本であったはずです。このような経緯があったため、学者のなかには、軍関係者が日本の朝鮮侵略政策を正当化するため、碑の本来の文字を書き換えたのではないか、と疑う人がいるのです。

碑文研究初期の貴重な記録【臨写本】

絹に筆で広開土王碑の文字を書き写し、四幅の掛幅に仕立てたものです。当館の記録によると、一八八六年(明治十九)に岸田吟香から当館が購入したものです。館に入った年次から

みて、酒匂氏の持ち帰った墨水廓填本を軍の関係者が研究している間に造られたものといことになり、文字の配列は酒匂本よりさらに本来のものに異なっており、研究の初期には文字の配列の復元にすら苦労したことを示すよい資料です。岸田吟香は「麗子像」で有名な画家である岸田劉生の父、その人と思われ、一八七五年(明治七)の台湾出兵に従軍記者として参加した人物で、軍に強い人脈を持っていたことが想像されます。ただ、吟香が碑文の一般公開に先立ってこのようなものを作成し博物館に譲渡した事情については調べがつかないまま、もっと調べると面白いことが分るかもしれません。

碑の本来の姿に近い【拓本】

集安では一八八七年(明治二十)頃から大型の紙を用いて広開土王碑の拓本が作られるようになり、文字の配

り、

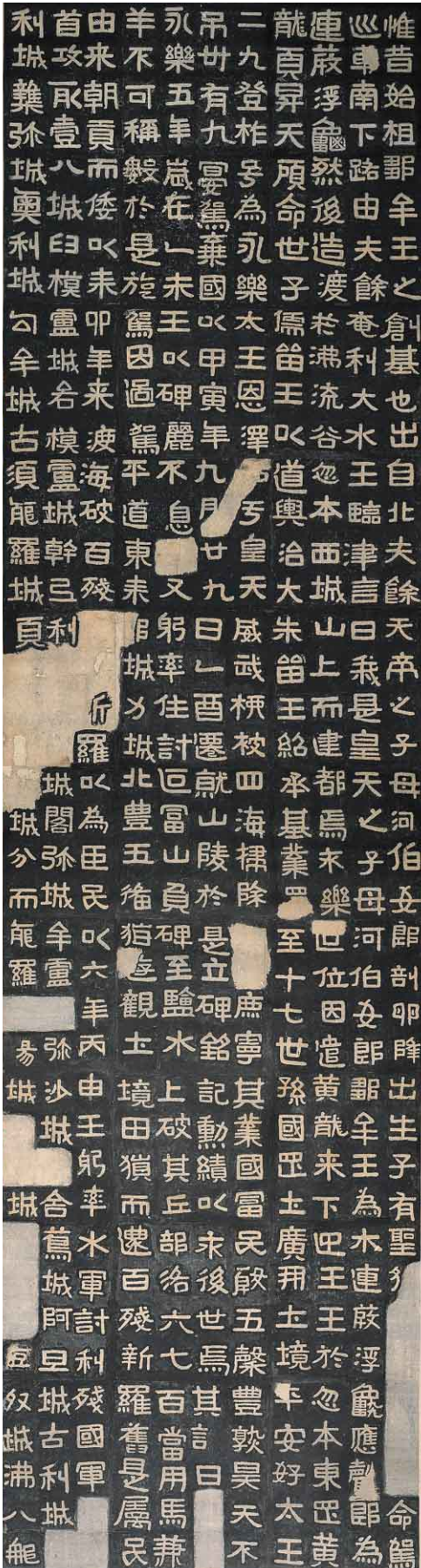


中国吉林省の広開土王碑
現在は観光の名所。表面はかなり痛んでおり、近くで見て文字はよくわからない

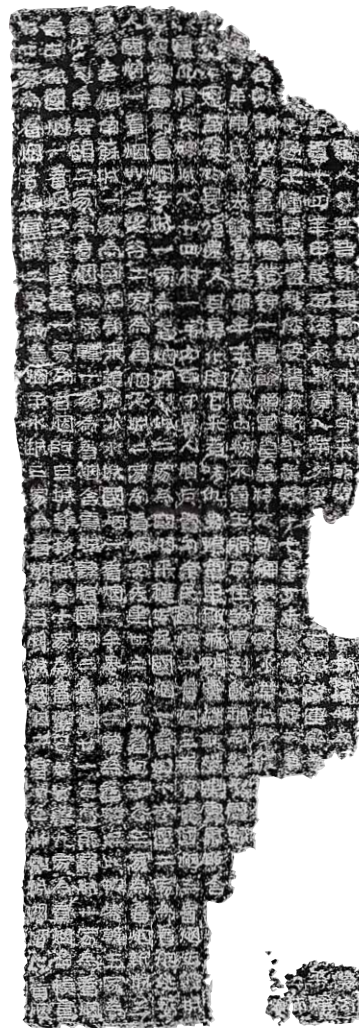
列は正確に分るようになりまし。しかし、碑の表面の保存状態がよくないため、拓本の文字は見やすくありませんでした。そこで、拓本の文字を鮮明にするため、碑の文字の周囲に石灰を塗ったりしたこともあり、拓本のなかには碑の本来の姿とはかなり違ってしまったものもあります。また拓本によって文字が違つていふことすらあり、本来の文字はどんなのか、また酒匂本の文字も適切なのかという疑問が生じることになりました。当館所蔵の拓本は一昨年に寄贈を受けたもので、塗られた石灰がかなり剥け落ちた状態を示しており、碑の本来の姿に比較的近いと考えられます。昨年は前半の二面分を展示しましたが、今回は後半の二面分を公開します。碑には読みにくい文字が多いことは実感いただけると思います。

このほかにも、広開土王碑周辺で出土した考古資料や、広開土王碑と時代が近い中国の石碑の拓本なども展示します。広開土王碑をめぐるさまざまな問題を考えていただける機会となれば幸いです。

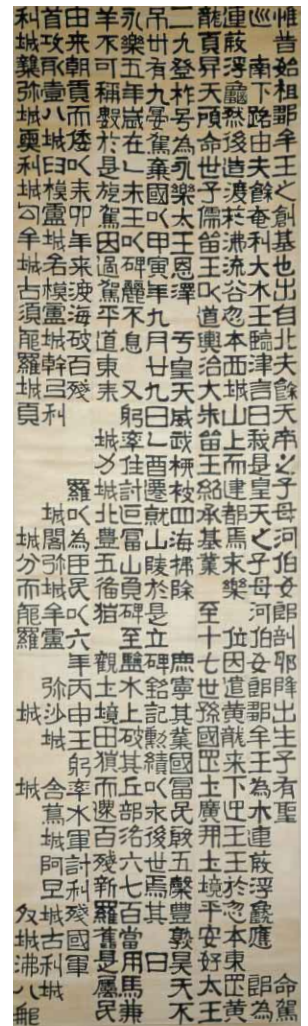
特集陳列「広開土王碑」
7月23日(水)~8月31日(日)
東洋館第8室
列品解説のご案内
「高句麗広開土王碑」
8月19日(火)14時~
平成館大講堂にて 講師 谷 豊信



広開土王碑 酒匂本(第1面) 東京国立博物館蔵
文字は実物大で、たいへんな迫力。左から3行目上のほう、「倭以辛卯年来渡海破百残……」の部分が論争の焦点



広開土王碑 拓本(第3面)
東京国立博物館蔵
今回展示する第3面の拓本。高句麗と倭の激戦の模様を記している



広開土王碑 臨写本(第1面)
東京国立博物館蔵
酒匂氏の持ち帰った墨水廓填本を並べ、それを見ながら写し取ったと思われる。これもほぼ実物大

東京国立博物館友の会

四月から、東京国立博物館ではより博物館に親しんでいただくため友の会をリニューアルし、東京国立博物館友の会と東京国立博物館パスポートを作りました。

また、ご入会の手続きは当館窓口での直接申込みに加え、郵便振替による申込みも可能になりました。

東京国立博物館友の会

- ・ 平常展は何度でもご覧いただけます。
- ・ 特別展用のチケットを十二枚差し上げます。
- ・ 同じ特別展を数回見たり、家

都内美術館・博物館 共通入館券

江戸開府四〇〇年を記念して東京都内の美術館・博物館など三十一の施設に入場できる共通入館券「東京・ミュージアムぐるっとパス」が四月一日から発売されています。東京国立博物館をはじめ、国立科学博物館、国立西洋美術館、東京都庭園美術館などの美術館・博物館の平常展、さらに上野動物園、葛西臨海水族園などにも入場できる共通チケットです。パスを最初に利用した日から一ヶ月間有効で、大人・子ども共に一八〇〇円です。パスを購入した際に、参加施設のガイドブックもお渡しします。

族や友人と一緒に楽しんだり、チケットは多様な使い方が可能です。

- ・ 「東京国立博物館ニュース」をお送りいたします。
- ・ 講演会等友の会限定の事業を開催します。
- ・ ミュージアムショップでのお買物の際、割り引き(一部商品を除く)があります。

年会費 一万円

既に友の会加入者で有効期限が平成十六年三月末までの友の会カードをお持ちの方は、今までどおり使用できます。

ぐるっとパス発売

ぐるっとパススタンプリリーも開催。十五館以上でスタンプを押せば、ミュージアムオリジナルグッズの福袋をプレゼントします。

東京には、魅力的な文化施設がたくさんあります。パスを上手に使って、楽しい休日をご過ごしませんか。



東京国立博物館パスポート

当館をお手軽にご利用いただくための一年間使用できるチケットです。

- ・ 平常展は何度でもご覧いただけます。
- ・ 特別展各一回計六回までご覧いただけます。

問い合わせ

当館 渉外課 渉外開発係
TEL 03 3822 1111(代)

価格 三千円(学生二千円)

本館リニューアルに伴う閉室のお知らせ

本館「階展示室」のリニューアルを行います。現在のジャンル別展示構成の見直しを行い、日本美術の流れをつかんでいただけるよう、わかりやすい展示を目指し、今年度と来年度にわたって段階的にリニューアルを図る予定です。そのため、誠に申し訳ありませんが、6月2日(月)～6月30日(月)は本館の二階展示室を閉室いたします。7月のリニューアルオープンを、どうぞお楽しみに。

Who's Who in 東博

きっかけは東博で
「また来たい」と思われる博物館を目指します

教育普及課 鈴木 みどりさん



教育普及室で、主に学校との連携事業や子ども対象のワークショップなどの企画・運営と実施を担当しています。

去年の四月から総合的学習の時間、というのが小中学校で設けられるようになり、生徒が自分自身で研究テーマを決めて博物館に来館するケースが増えました。先生や生徒と話し合いながら、希望されるテーマにあわせた見学や体験学習、解説や質疑応答などを行っています。この四月から始めたこともミュージアム博物館ってどんなところ？ はたらく人たち編も生徒からよく質問がある博物館の仕事について紹介するプログラムにしました。

教育プログラムが、来館した一人一人にとって博物館やその作品から何かを感じたり興味をもつためのきっかけとなり、またここに来たいと思ってもらえれば、と願っています。

東京国立博物館ニュース 定期郵送のご案内

本誌の定期郵送をご希望の方は、年間(6冊分)1000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします(振替手数料は申込者のご負担となります)。郵便局備え付けの振替用紙で下記までお振込みください。

加入者名(振替先)

東京国立博物館ニュース
口座番号 00100 - 2 - 388101
振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください。
* 振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください。

東京国立博物館利用案内

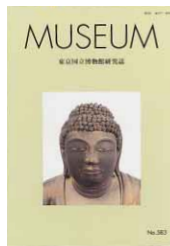
開館時間：9：30～17：00、4月から12月の特別展開催時の金曜日は20：00まで開館(入館は閉館の30分前まで)。
休館日：毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月29日～1月1日)、ゴールデンウィークおよび夏休み期間(7月20日～8月31日)は原則として無休。

平常展観覧料

一般420(210)円、大学生130(70)円
* 障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください。
* 満65歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください。



春の庭園開放実施
当館本館の北側にある庭園には円山応挙の襖絵のある応挙館、狩野山雪、山楽の作と伝えられる絵のある九条館など六つの茶室があり、季節ごとに趣のある風景が楽しめます。これまで、茶会等で貸し席としてご利用いただいていたほか、ボランテアによる庭園ツアーなどで園内をご紹介いたしました。今年からは季節のよい時期を選んで、公開することになり、さる3月21日、4月6日の二週間、一般に開放されました。ちょうどお花見の時期ということで、来館した多くの皆さまが美しい桜の下、思い思いに散策を楽しみました。次回の公開日程は決まり次第本誌上やホームページなどでお知らせします。お楽しみに。



『MUSEUM』
583号(4月号)
「日本古代における木彫像の樹種と用材観」
八・九世紀を中心に
金子啓明(当館事業部長)
岩佐光晴(同図書映像サービス室長)
能城修一(森林総合研究所木材特性研究領域チーフ長)
藤井智之(同木材特性研究領域長)
「中国墓葬における独角系鎮墓獣の系譜」
吉村吉子(美術史学会会員)
* 購読の問い合わせ
当館ミュージアムショップ
(TEL 03 3822 0088)まで

九博だより 13 最終回

テーマ 「東洋と西洋」の構想

九州国立博物館設立準備室

テーマ は近世の展示です。大航海時代の西洋との接触から鎖国、さらに列強の接近による開国へと進んだ歴史のなかから、特に対外文化交流について、東洋・西洋を含めた視点でみていきます。

基本展示は十六世紀半ばのキリスト教と鉄砲の伝来から始まり、豊臣秀吉の朝鮮侵略などの小テマがあり、鎖国の完成までを紹介します。次の鎖国時代では日本の貿易・外交が、長崎、対馬、松前、琉球の四つの窓口に限られた社会を扱います。貿易相手は対中国・対オランダ(、対朝鮮)、対アイヌ(、)であり、では琉球の視点から対中国・対日本の貿易と外交をみようとするものです。最後の開国ではロシア・イギリス・アメリカ・フランスなどの来航が開国への引き金になった時代を考えます。関連展示は、近世の日朝関係と

以上の展示テーマは、文化交流展示の前段を語るべき、歴史的な出来事を扱った対外交渉史の性格が強いものになっています。その理由は、検討段階で実際にならぶ実物資料が明確にできなかったことにより、現段階(実施設計作成中)では、前回でも触れたように、三つの国立博物館の協力を得ながら展示資料を具体的に押さえることができ、実際の展示資料にもとづくテーマ構想の立案が可能になりました。例えば西洋朝鮮および琉球などとの交流を描いた絵画資料、東アジアを中心とした世界地図、古代から近世までの中国・日本貨幣、江戸時代の火縄銃、近世考古の出土遺物などがあります。他の

テーマと対照的なのは、レプリカ資料が全く上がっていないことです。それは近世文化交流資料がいまなお、世の中には豊富にあることを裏付けるものであり、これらの実態調査研究が今後の博物館活動の大きな課題であると考えています。

「九博だより」は今回で連載を終えることになりました。今後の開館準備の報告は目下検討中です。なおこれまでの「九博だより」は四月開設予定の九博準備室ホームページでご覧いただけます。しほしの愛読ありがとうございます。



テーマ 展示室イメージ

九博準備室ホームページ

URL <http://www.kyuhaku.com/pr/>

本館

第1室 陶磁

5/7 6/29

江戸と桃山の陶磁

桃山 志野茶碗銘振袖 美濃

桃山 織部彫形蓋物 美濃

桃山 耳付袋形水指 伊賀

桃山 烏帽子水指 備前

江戸 染付鳳凰図大皿 伊万里

江戸 瑠璃地芥子文猪口 鍋島

江戸 色絵唐花文付 鍋島 (個人)

江戸 色絵波に三日月図茶碗 仁清

第2室 工芸・日本工芸の至宝

6/29

平安 ●金銅蓮華唐草文盤 (禅林寺)

桃山 陣羽織 狸々緋羅紗地連鎌模様

江戸 ●八橋時絵螺鈿硯箱 尾形光琳作

第3室 染織

6/29

近世の染織

桃山 胸服 浅葱白紫染分練緯地

江戸 小袖 白輪子地流水松藤模様

江戸 小袖 紫紋縮緬地 鯉藻模様

江戸 掛下帯 萌黄縹子地 波に鯉模様

江戸 打掛 鼠地 唐織花立涌八橋模様

江戸 衣裳人形 五月人形

江戸 産衣 茶平絹地 網干海松貝模様

江戸 陣羽織 淡黄羅紗地片輪車模様

第4室 工芸

4/1 6/29

特集陳列 「孔子さまのおまつり 湯島聖堂積善齋」

江戸 歴聖天備像 狩野山雪筆

江戸 海藻時絵蓋・蓋・豆・粗

江戸 雷神時絵尊

江戸 雲龍時絵尊案

江戸 歌器

江戸 田嶋家耕時絵書格

第5室 武器・武具

3/25 6/22

刀剣・刀装

鎌倉 ●太刀 来国光 嘉暦二年紀

鎌倉 ●刀 正宗 城和泉所持

鎌倉 小太刀 名物蜂屋長光

桃山 短刀 埋忠明寿 慶長十三年紀

桃山 朱漆打刀

第6室 武器・武具

4/1 6/22

甲冑

鎌倉 二十八間四方白足兜鉢

宮崎県西米良村出土

室町 櫻鳥糸肩赤威胴丸

江戸 紫裾濃威胴丸具足

第8室 彫刻

6/29

日本彫刻史

飛鳥 聖造観音菩薩立像 那智山経塚

平安 聖観音菩薩立像 (醍醐寺)

平安 吉祥天立像 (当麻寺)

慶派の彫刻

鎌倉 大日如来坐像 (光得寺)

鎌倉 千手観音菩薩立像 四十号

鎌倉 温慶作(妙法院)

鎌倉 四天王菩薩立像 康巴作

第9室 彫刻

6/29

特集陳列「康巴作文殊五尊像」

鎌倉 文殊菩薩および侍者像 康巴作

第10室 金工

6/29

日本金工の流れ

奈良 金刺器

奈良 響銅鈴碗 (一荒山神社)

奈良 全銅鉢

平安 ●全銀鍍金相華唐草透羅襪(神照寺)

平安 ●線刻威王権現像

平安 ●線刻威王権現像 (西新井大師総持寺)

平安 全銅瓶鎖柄香炉 (金剛寺)

第13室 中世・近世絵画

4/15 6/1

鎌倉 金銅種子華鬘 奈良国立博物館

鎌倉 金銅五種鈴 (尊永寺)

鎌倉 金銅聖観音懸仏

室町 銅鈿灯籠 (笠森寺)

室町 蓮葉八枝鏡 (熱田神社)

桃山 菊筒紋角切方鏡「天下一言」

江戸 鉄目在籠置物 明珍宗察作

特別第1室 浮世絵版画

4/29 5/25

江戸 亀戸太鼓橋 磯田湖龍齋筆

江戸 大草山文五郎 東洲斎写楽筆

江戸 山姥に金太郎 喜多川歌麿筆

江戸 紅毛油絵風・亀戸天満宮 歌川国貞筆

江戸 小野道風 鈴木春信筆

江戸 夕立雨宿り 勝川春潮筆

江戸 京都名所之内・糺川原の夕立

江戸 木曾海道六拾九次之内・大津

特別第2室 民族資料

6/29

特集陳列「琉球の染織とその周辺」

第二尚氏 薄藍色地水に菊

江戸 芭蕉紺地花織衣装 《大和良工》

第二尚氏 鼈甲簪

第二尚氏 花巾着

第11室 古代・中世絵画

6/1

特集陳列「鎌倉新仏教の美術」

鎌倉 法然上人像 (常福寺)

鎌倉 聖徳太子像 (本證寺)

鎌倉 遊行上人伝絵巻 巻乙 (常福寺)

鎌倉 拾遺古徳伝絵巻 (常福寺)

江戸 日蓮大士真実伝

第12室 国宝室 絵画

5/5

江戸 ●唐見泉石像 渡辺華山筆

江戸 ●餓鬼草紙絵巻

鎌倉 ●餓鬼草紙絵巻

第17室 近代工芸

6/1

江戸 葵紋時絵野并当

江戸 明治 吉野山時絵小筆筒 梶川作

江戸 明治 印籠・根付

室町 清水寺図扇面 伝土佐光久筆

桃山 十六羅漢図屏風 長谷川等伯筆

江戸 山水図屏風 狩野興以筆

江戸 漢武帝・西王母・林和靖図

狩野探幽筆《岡田信一 郎氏

江戸 林和靖・山水図 狩野山雪筆

江戸 雑画帖 土佐光則筆

江戸 山水図屏風 彭城百川筆

江戸 那智瀧瀑図 池大雅筆

江戸 山中結廬図 浦上玉堂筆(個人)

江戸 船窓小戯帖 田能村竹田筆

江戸 桂時計美人図 西川祐信筆

江戸 美人愛猫図 磯田湖龍齋筆

第14室 歴史資料

江戸 幕府と町人

4/22 6/1

『江戸城再現』

江戸 江戸城天守閣図

江戸 江戸城障壁面下絵 狩野晴川院筆

江戸 公用日記 狩野晴川院筆

明治 旧江戸城写真帖

第15室 漆工

6/1

平安 蓮池時絵経箱 (金剛寺)

鎌倉 ●月輪牡丹時絵経箱 (西大寺)

室町 織物貼文台硯箱 (早雲寺)

室町 按時絵硯箱

室町 桃山 初瀬山時絵硯箱

桃山 按時絵硯箱

第16室 漆工

6/1

江戸 桜西行時絵硯箱

江戸 比良山時絵硯箱 梅見政誠作

江戸 扇面散時絵硯箱

江戸 竹葉菱紋散時絵硯箱

第18室 近代洋画

4/22 6/1

明治 系線老婆 ワグマン筆

明治 旧江戸城之図 高橋由一筆

明治 旧江戸城之図 高橋由一筆

明治 旧江戸城之図 高橋由一筆

明治 H婦人像 和田英作筆

大正 農園の一隅 石井相亭筆

《波多野元武氏

第18室 近代洋画

4/22 6/1

明治 系線老婆 ワグマン筆

明治 旧江戸城之図 高橋由一筆

明治 旧江戸城之図 高橋由一筆

明治 H婦人像 和田英作筆

大正 農園の一隅 石井相亭筆

《波多野元武氏

第18室 近代洋画

4/22 6/1

明治 系線老婆 ワグマン筆

明治 旧江戸城之図 高橋由一筆

明治 旧江戸城之図 高橋由一筆

明治 H婦人像 和田英作筆

大正 農園の一隅 石井相亭筆

《波多野元武氏

第18室 近代洋画

4/22 6/1

明治 系線老婆 ワグマン筆

明治 旧江戸城之図 高橋由一筆

明治 旧江戸城之図 高橋由一筆

明治 H婦人像 和田英作筆

大正 農園の一隅 石井相亭筆

《波多野元武氏

第18室 近代洋画

4/22 6/1

明治 系線老婆 ワグマン筆

明治 旧江戸城之図 高橋由一筆

明治 旧江戸城之図 高橋由一筆

明治 H婦人像 和田英作筆

大正 農園の一隅 石井相亭筆

《波多野元武氏

法隆寺宝物館

4/29 6/29

第1室 灌頂幡

飛鳥 ●灌頂幡

飛鳥 ●金銅小幡

第2室 金銅仏 光背 押出仏

飛鳥 阿彌陀如来および西脇侍像 山田殿像銘

飛鳥 弥勒菩薩立像 丙寅銘

飛鳥 菩提樹立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 弥勒菩薩立像

飛鳥 奈良 沈水香
奈良 紅牙擦鏡尺

第5室 金工
飛鳥 ●●● 鶴尾形柄香炉

飛鳥 ●●● 水鏡
奈良 水鏡
奈良 水鏡

第6室 絵画・書跡・染織
4/29 ~ 6/29
書跡 平安 法華経
平安 梵網経
鎌倉 勝鬘経

4/29 ~ 5/25
染織
飛鳥 蜀江錦襦袢欠
飛鳥 蜀江錦帯
飛鳥 白氈

5/27 ~ 6/29
染織
飛鳥 奈良 綾襦袢欠
飛鳥 奈良 平絹襦袢欠
飛鳥 奈良 黄地平絹襦袢欠

東洋館
第1・2室 彫刻
クシャーン朝 石造如来坐像
石造菩薩交脚像
以上ハキタン・ガンダーラ

3世紀 石造菩薩頭部
インド・マトゥラー
1 ~ 3世紀 人物・鹿・双獣文磚
8 ~ 9世紀 金銅如来坐像 カンジュミル
唐 石造浮彫二尊仏龕(宝慶寺石仏)
唐 石造如来倚像(天龍山石窟)
16 ~ 17世紀 金銅ヤマーンタカ像
以上中国東房子氏

西アジア・エジプト
第3室 エジプト
プトレマイオス朝 木彫鴉像
第23室 カルトナー・ジウ棺ミイラ

第3室 西アジア
初期王朝時代 銅製定礎神像 イラク南部
ウル第三王朝 楔形文字粘土板文書 イラク
ササン朝 ガラス製切子装飾碗 イラン
12 ~ 13世紀 ラスター彩鉢 イラン
インド・東南アジア

第3室 考古
埋蔵銅器文化 銅矛 インド
パンチエン文化 青銅器・土器 タイ
第3室 陶磁
11 ~ 12世紀 灰釉蓮弁文合子 クメール
《仏印極東学院交換品》
15世紀 鉄絵魚文鉢 タイ・スコタイ窯
(個人)

第3室 工芸
「クリスとワヤン」
17世紀 クリス インドネシア・中部ジャワ
第3室 彫刻
8 ~ 9世紀 銅造ジャムハラ坐像
インドネシア

12世紀 石造ナーガ上の仏坐像
カンボジア、アンコール・トム
《仏印極東学院交換品》
第3室 染織
18世紀 藍地花模様金更紗 サロン
インドネシア・ジャワ

中国
第4・5室 考古
商 甲骨
後漢 揺鈴樹
第5室 金工
唐 海獣葡萄鏡
唐 双鳳瑞花八花鏡
第5室 陶磁
北宋 柿釉金銀彩牡丹文碗 定窯
《井上恒一・富美子氏》
遼 緑釉皮囊壺

第5室 染織
明 大袋金襴
第5室 漆工
元 龍涛螺鈿椀花盆
第5室 清時代のガラス
清 黄色ガラス瓶「乾隆年製」銘
第6・7室 画像石
後漢 画像石 山東省
第8室 絵画
5/7 ~ 6/8
宋 ●●● 十六羅漢図
宋 十六羅漢図 金大受筆
宋 千手觀音図
元 羅漢図 伝禅月筆
元 寿星図
元 天帝図
6/10 ~ 7/21
元 山水図 伝夏珪筆
元 山水図 王誥筆
明 樓閣山水図 仇英筆
明 初夏山齋図 居節筆
明 江山無尽図巻 呉振筆
第8室 書跡
5/5 ~ 25

北周 摩訶般若波羅密經卷卅二
南宋 ●●● 禅院韻字 張即之筆(東福寺)
南宋 楷書大方広仏華嚴經冊 張即之筆
《高島菊次郎氏》
清 行書八言聯 包世臣筆
《青山杉雨氏》
5/27 ~ 7/21
【明時代の書】
楷書前後出師表卷 祝允明筆
草書宋之問詩卷 王寵筆
楷書離騷經巻 文徵明筆
草書七言律詩軸 陳淳筆 《戸坂隆吉氏》
行草書尺牘軸 陳子龍筆 《林宗毅氏》
朝鮮
第9・10室 考古
青銅器 異形勾玉と石製農具
初期鉄器 多鈕細文鏡

楽浪 貞拍里227号墳出土土器
三國 金銅製裝身具 伝昌寧古墳群
統一新羅 塔像文磚 蔚山中山里廢寺
第10室 金工
高麗 青銅鐘「乾統七年」銘
(西新井大師総持寺)

第10室 彫刻
高句麗 塑造菩薩立像 《山本茂策氏》
三國 金銅如来及兩脇侍像
三國 統一新羅 陶製菩薩頭部
《以上2点小倉コロクション保存倉》
第10室 陶磁
統一新羅 緑釉脚付壺
高麗 青磁蓮唐草文水注
朝鮮 粉青線刻魚文双耳鉢
第10室 漆工
朝鮮 葡萄螺鈿衣笠箱
《小倉コロクション保存倉》

西域
第10室 西域美術
5 ~ 6世紀 染色用型 ヨトカン出土
6 ~ 7世紀 蓮華化生像
ホータン出土
7 ~ 9世紀 力士像部分
クムトラ石窟出土
8 ~ 9世紀 供養者像部分
カラシャール出土
第10室 西域絵画
5/7 ~ 6/22
唐・9世紀 地藏菩薩像繪
敦煌莫高窟藏經洞(ヘリオ探検隊将来品)

平成館
考古展示室
先縄文 細石器 新潟・荒尾遺跡
縄文 土偶 群馬・吾妻町郷原(個人)
縄文 土偶 長野・中川根町
縄文 土面 埼玉・羽生市菟戸
縄文 巻貝形土製品 新潟・山北町

縄文 火焔形土器 伝新潟・馬高遺跡
縄文 注口土器 青森・十和田市
弥生 ●●● 伝香川
弥生 銅鐻 滋賀・野洲町大岩谷
弥生 銅戈鏃型 佐賀市久保泉町
弥生 銅劍(腕輪) 福井・鯖江市
弥生 土骨 神奈川・毘沙門C洞窟
弥生 人面付土器 茨城・下館市女方
古墳 四神鏡 兵庫・吉島古墳
古墳 龍虎鏡 京都・長法寺南原古墳
古墳 青龍三年銘方格規矩四神鏡(個人)
古墳 方格規矩四神鏡(京都国立博物館)
古墳 変形方格規矩四神鏡
奈良・佐味・田宝塚古墳
《以上5点 銅鏡にみる四神像の変遷》
6/15

古墳 東大寺山古墳出土品 奈良・天理市
古墳 ●●● 宮地嶽古墳出土品 福岡・津屋崎町(宮地嶽神社)
古墳 赤鳥元年銘神獸鏡 山梨・鳥居原古墳(一宮浅間神社)
古墳 正始元年銘三角縁神獸鏡 群馬・壺沢古墳
古墳 ●●● 人物画像鏡 (隅田八幡神社)
古墳 土師器(五須式) 東京・あきる野市《塩野半十郎氏》
古墳 鉄 奈良・大和6号墳(宮内庁)
古墳 銅鏡 埼玉・小見真観寺古墳
古墳 ●●● 銀象嵌銘大刀・冠・甲冑 馬具・須恵器 熊本・江田山古墳
古墳 陶棺・須恵器 群馬・太田市
古墳 埴輪子を背負う女子・挂甲の武人 栃木・鶏塚古墳
古墳 埴輪琴を弾く男子(伝茨城)(個人)
古墳 埴輪水鳥 埼玉・行田市(個人)
古墳 埴輪馬 群馬・上芝古墳
古墳 埴輪切妻造家・切妻造倉庫群 群馬・白石種荷山古墳
飛鳥 蓮華文軒丸瓦 奈良・飛鳥寺
飛鳥 蓮華文鬼瓦 奈良・奥山久米寺
奈良 三彩壺 京都市西寺跡

寄贈品展示室
6/1
「ティファニーからの贈りもの」
スタンドグラス、独立戦争図
ルイス・コンフォート・ティファニー作
フアブリル・グラス 脚付燭台
ルイス・コンフォート・ティファニー作
《以上2点ティファニー氏》
6/7 ~ 7/13
「川端家寄贈の毘沙門天立像」
平安 毘沙門天立像 《川端家》

●●●は国宝 ●●●は重要文化財 ●●●は重要美術品を表します。
*展示期間の記載のないものは5・6月の2カ月をばさんで展示されるものです。
*()内は所蔵者、《 》内は寄贈者を表します。所蔵の表記のないものは当館所蔵の作品です。
*都合により、展示期間・展示品の予定を一部変更することがあります。
*本館2階(第11室・第20室)は6月2日・30日は、リニューアルのため閉室させていただきます。

奈良 ●●● 瑞雲骨盤 福岡・津屋崎町 (宮地嶽神社)
平安 灰釉壺 茨城・北浦町
平安 肥前城跡出土品 岩手・水沢市 (水沢市埋蔵文化財センター)
平安 銅製経筒 山梨・柏尾山経塚 平安 極楽寺経塚出土品 兵庫・香寺町 (常福寺)
鎌倉 十二所遺跡出土品 神奈川・鎌倉市 江戸 小判 東京・大島町
寄贈品展示室
6/1
「ティファニーからの贈りもの」
スタンドグラス、独立戦争図
ルイス・コンフォート・ティファニー作
フアブリル・グラス 脚付燭台
ルイス・コンフォート・ティファニー作
《以上2点ティファニー氏》
6/7 ~ 7/13
「川端家寄贈の毘沙門天立像」
平安 毘沙門天立像 《川端家》

東京国立博物館 コース第659号 平成15年5月1日発行(隔月1回奇数月発行) 編集/東京国立博物館広報室 C 東京国立博物館
 発行/東京国立博物館 TEL 03-8712-東京都台東区野公園13-9 TEL 03-3822-1111(大代表) *ホームページ URL http://www.tnm.jp/ 独立行政法人国立博物館ホームページ URL http://www.namuseum.jp/ 制作・印刷/株ONPアーカイブ・コム

2003年5月 東京国立博物館5月・6月の展示・催し物 2003年6月

1 THU	
2 FRI	夜間開館 20:00まで
3 SAT	🌳 15:00
4 SUN	
5 MON	西本願寺展最終日
6 TUE	休館日
7 WED	🗨️ 11:30 / 15:30 🌳 15:00
8 THU	
9 FRI	🗨️ 11:30 / 15:30
10 SAT	講演会「弓箭と刀剣 その歴史的位置を探る」13:30 平成館大講堂 🌳 15:00
11 SUN	
12 MON	休館日
13 TUE	平成14年度新収品 本館特別第3・4室 列品解説「40分でわかる! 蒔絵の歴史」14:00 本館第15室
14 WED	🗨️ 11:30 / 15:30 🌳 15:00
15 THU	🚶 13:00 / 14:30
16 FRI	🗨️ 11:30 / 15:30
17 SAT	🚶 13:00 / 14:30 🌳 15:00
18 SUN	講演会 古代の染織シリーズ 🗨️ 11:30 / 15:30 「さまざまな技法: 刺繍、組紐など」13:30 平成館大講堂
19 MON	休館日
20 TUE	列品解説「春秋・戦国時代の青銅器」14:00 東洋館第5室
21 WED	🗨️ 11:30 / 15:30 🌳 15:00
22 THU	🚶 13:00 / 14:30
23 FRI	🗨️ 11:30 / 15:30
24 SAT	🚶 13:00 / 14:30 🌳 15:00
25 SUN	
26 MON	休館日
27 TUE	列品解説「中世の須恵器」14:00 平成館考古展示室
28 WED	🌳 15:00
29 THU	🚶 13:00 / 14:30
30 FRI	
31 SAT	🚶 13:00 / 14:30 🌳 15:00

6/22まで

1 SUN	
2 MON	休館日
3 TUE	鎌倉 禅の源流
4 WED	🗨️ 11:30 / 15:30 🌳 15:00
5 THU	
6 FRI	🗨️ 11:30 / 15:30 夜間開館 20:00まで
7 SAT	川端家寄贈の毘沙門天立像 🌳 15:00 講演会 初めての東京国立博物館シリーズ考古学入門 「古墳時代の考古学I(前・中期)」13:30 平成館大講堂
8 SUN	
9 MON	休館日
10 TUE	列品解説 「川端家寄贈の毘沙門天立像について」14:00 平成館寄贈品展示室
11 WED	🗨️ 11:30 / 15:30 🌳 15:00
12 THU	
13 FRI	🗨️ 11:30 / 15:30 夜間開館 20:00まで
14 SAT	「鎌倉 禅の源流」展記念講演会 🌳 15:00 「鎌倉の禅宗美術」13:30 平成館大講堂
15 SUN	
16 MON	休館日
17 TUE	列品解説「彫金の技法からみた日本と韓国」14:00 法隆寺宝物館第5室
18 WED	🗨️ 11:30 / 15:30 🌳 15:00
19 THU	
20 FRI	🗨️ 11:30 / 15:30 夜間開館 20:00まで
21 SAT	講演会 初めての東京国立博物館シリーズ 🌳 15:00 「琉球文化財への招待」13:30 平成館大講堂
22 SUN	
23 MON	休館日
24 TUE	列品解説「遼の陶磁」14:00 東洋館第5室
25 WED	🌳 15:00
26 THU	
27 FRI	夜間開館 20:00まで
28 SAT	「鎌倉 禅の源流」展記念講演会 🌳 15:00 「禅という生き方」13:30 平成館大講堂
29 SUN	
30 MON	休館日

7/13まで

- 🌳 = ボランティアによる樹木ツアー、場所: 前庭内
- 🚶 = ボランティアによる本館ハイライトツアー、場所: 本館
- 🗨️ = ボランティアによる浮世絵版画展示解説、場所: 本館1階

*上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定は、インフォメーションカウンターでご確認ください。のついた催しは事前申込が必要です。(本誌3ページをご覧ください)

京都国立博物館・奈良国立博物館 展示・催し物の案内

京都
 5月25日(日)まで
 特別展覧会「弘法大師入唐1200年記念 空海と高野山」

奈良
 5月25日(日)まで
 春季特別展「女性と仏教 いのりとはほえみ」